

大学婦人協会東京支部

1995.7
第18号

- 「会議は踊らず、されど動く」-青木怜子-
- 「高等教育と女性」シリーズ①-山崎倫子さん-

東京支部総会報告

書記 関口瑞穂

一九九五年東京支部総会は、四月二十二日(土)国立教育会館で開催された。

支部会員数六四二名中出席者七四名、有効委任状二九七通で総会は成立。初めに支部長が、八月の国際会議をひかえて支部会員のLAC委員としての活躍と、寄贈する資料用バッグの説明、また今年から東京支部国内奨学金として大学院生一名に十万円贈呈する事になったと挨拶。

議事に入り、事業報告及び決算報告、会計監査報告と続き、一九九五年度の事業計画案及び予算案を審議、承認された。一部役員の交替と新委員の紹介の後、青木会長の、国際会議の登録状況、体験を交えながらのIFUW国際会議についての話、中村道子企画委員長の話、熊切財務委員長の数々の目的を持つバザーへの寄贈品の協力等の話があった。

記念講演は、N・Yタイムズ紙アジア代表ヘンリー・スコット・ストークス氏の「外国のジャーナリストから見た日本」。質問も出て興味深く拝聴した。

(関口瑞穂)

事業報告・予定

4月22日 東京支部総会

於国立教育会館

5月18日 講演「旧ユーゴのこともど」

講師 今時ミルカ氏

6月14日 インド大使館訪問(財務主催)

講演「国際社会における日本人とは」

6月15日 講師 佐々木知子氏

~~~~~

7月1日 「ともしび」第18号発行

夏のバスツアー

7月5日 富士氷穴他(財務主催)

8月18日 IFUW国際会議

テーマ「女性の未来は世界の未来」-生存と進歩のための教育-

於横浜国際平和会議場

9月27日 見学「東海村原子力施設」

10月18日 講座「上野寛永寺」

講師 寛永寺執事

浦井正明氏

11月18日 観劇 水谷良重「八重子

襲名披露(財務主催)

12月9日 能楽鑑賞 国立能楽堂

1月20日 新春のつどい(本部主催)

## 奨学金について

支部長 松沢美仁子

四月二十二日の支部総会を経て、東京支部から大学院生一名に十万円の奨学金を贈呈することになった。

応募資格は「文部省の認可する大学の大学院に一年以上在籍する女子学生で、人文学業とも優れた者」。募集と選考は国内奨学委員会一般奨学生と共にを行う。

したがって、大学婦人協会国内奨学生募集要項の一般奨学生大学院生は、一人十万円で九名募集だったが、東京支部からの一名が増えて十名になった。優秀な若い女性研究者を応援するのは、かねてからの東京支部の願いでもあり、継続できるような努力していきたい。



## 支部総会記念講演

## 「外国のジャーナリストから見た日本」

N・Yタイムズ紙アジア代表

ヘンリー・スコット・ストークス氏



日本に住まれて二十五年。奥様は日本人でいらつしやるといふことで、「はじめまして。ブローケンジャパニーズだったらごめんなさい」という流暢な日本語でストークス氏の講演は始まった。資料としてニューヨークタイムズ、ワシントンポストの抜粋その他が配られ、準備のほどもさずである。

新聞記者としては避けて通れないテーマとして、まずサリン問題にふれられた。恐らくオウム教の仕業であらうとお説。私はふと数年前にニューヨークからの知人夫妻を銀座に案内したことを思い出した。八時を過ぎてものんびり歩く人々を見て、「東京は安全で羨ましい」と夫人が感嘆した。今こんな東京になり、平穩の大切さを痛感するばかりである。

日本通で定評のある氏のこととして、文学にも精通されており、源氏物語、

維新の話、三島由紀夫などなど話題は次々に泉のごとく湧き出てくる。

イギリスの二十世紀の代表的彫刻家であるヘンリー・ムーアが、イタリア、フランスの大作家と並んで名を成したのには、大企業家がパトロンとして芸術家を育成するようになったからとの説は傾聴に値する。

もちろん、日米間の経済問題、貿易問題についても豊富な意見を述べられた。バブルのはじけた日本での大銀行の合併については、誰が利益を得るのでしょうかと、きびしい見方もされている。政治問題では何かと齟齬をきたす日米間も、民間レベルでは仲良く一つのイベントに力を合わせているといふことで、クリスト夫妻の例をあげられたのは興味深い。「私はイギリス人。妻は日本人。ジャーナリズムの中心はやはりアメリカであり、自分のジャーナリストとしてのスピリットはアメリカだと思っている」と言われる。氏の豊かな知識と国際感覚に基づく講演は、まさに「意余って時間足らず」であり、詳細にふれるには「紙面全く足らず」ということである。

(柴崎富子)

## 支部の宝船

副支部長 鈴木光子

八月の国際会議の成功を祈念して各支部から宝船が次々とLAC本部に到着している。

東京支部でも、資料を入れるバッグを千個寄付することが前々から決まっていた。これは傘の生地に残り布で縫製し販売しているもので、この売上げは身体障害者のための衣料研究所の資金ともなり、しかも市価よりもずっと安く購入することができた。バッグひとつひとつに名札をつけて約五十五万円となった。

又、IFUW本部への会計報告書作成のために、東京支部所有のパソコンソフト「ロータス」をLAC本部財務へ貸与している。これでLACは二十万円程度、経費節減になる由。

また、本部お膝もとに位置する支部として忘れてならないのは人的貢献で、多数の東京支部会員がLACの各委員会に属し、それぞれ責任ある立場で仕事をしている。

このように、会員の力強い協力とともに東京支部も有形無形のたくさん宝船を出帆させている。出席される世界各国の方々にも十分満足していただけることを祈って。

## 第38回通常総会に出席して

支部長 松沢美仁子

開催予定地の神戸支部がすべての準備を終えた時、あの壊滅的な阪神大震災が発生、今年の通常総会本部主催となり、横浜で四月三日和やかな懇親会で開幕した。

翌四月四日、総会の出席者は一七一名。開会の辞に続き、震災で亡くなられた母里様を含む一年間の逝去会員のご冥福を祈って黙禱。青木会長の司会で報告、審議と議事が進んだ。目前に迫った当地横浜での国際会議の準備状況について房野LAC委員長から説明があり、一月の大震災に続き地下鉄サリンや警察庁長官狙撃事件などで日本の安全神話が崩れたところに円高が直撃して、海外からの申込み数が予想を大きく下回っているとか。より多くの日本人会員の参加が望まれ、登録料は六月十五日まで据え置きとなった。加藤募金委員長より、会員からの募金は目標額に達したが、バブル後の企業募金が予想以上に厳しいので皆様のより一層のご協力をと要請があった。次期総会について茨城支部長から開催承諾の挨拶があり、国際会議成功を祈りつつ散会した。

## 講演二題

## 「旧ユーゴのことなど」

講師 今時ミルカ氏

チトー大統領の社会主義の時代に育ち、日本人と結婚、三十年前に来日、大きなカルチャーショックを経験し、今、自分の人生、何か自分を生かして過ごしたいという思いの今時さんに、ユーゴの話をつたえた。

ユーゴスラビアは、日本の2/3の広さの国土に人口は日本の2/5、アドリア海に面し、七つの国に囲まれ、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字、一つの国ユーゴといわれていた。歴史的には、セルビア王の治めるユーゴスラビア王国であったのが、第二次大戦後社会主義国となり、二年前に新ユーゴが生まれた。

チトー大統領時代、物質的には豊かでも、文化的には豊かな暮らしができ、幸せな社会を作ろうと人々は働き、皆とても国を愛していた。しかし、チトー大統領の死後、社会的仕事が一交代制をとるようになり、国づくりの理念がなくなり、己の利益のために動くようになると、経済は悪化し、国民は政府に不満を抱きはじめ、各共和国が自国を守る

ために独立する方向へ進みはじめた事が、ユーゴに内戦をもたらした。

内戦は民族間の争いで、現に、クロアチア人と結婚してそこに住むセルビア人の姉は、セルビア人というところで差別を受け、職を失い、母と会うこともできない。母国を訪れ、数々の悲劇を見た事がきっかけとなって、二年前から、セルビア人、クロアチア人という民族をこえての、難民の子供を助ける会を始めた。難民の中にも、セルビア人の母と逃げて来て後、孤児となり、クロアチアに父がいると分かっていても引き渡す手段もなくキャンプに残っている子供など、悲劇は限りなく起こっている。幼い子は内戦を夢だと言いたいと言、高校生は卒業したら鉄砲を持って仕返しに行きたいという。相手が悪いと思っただけは戦争は終わらない。この内戦で、平和は一瞬にして崩れ去る事、国の指導者によって一般市民の生活は、いとも簡単に壊れてしまう事を痛感した。

今の思いは、民族とか国に捉われず、心は広く地球とつながるようになりたい。今は無理でも、将来こうなる事を願っていると結ばれた。

(福田悦子)

## 「国際社会における日本人とは」

講師 佐々木知子氏

現職の女性検事、しかも「恋文」で横溝正史賞受賞と多才な佐々木知子氏。氏は平成五年より府中市にある国連アジア極東犯罪防止研究所教官として在任。

薬物、銃器等犯罪も国境を越えた問題となっている今、アジア各地域から派遣されて来る刑事、司法に携わる人々(各国のエリート、帰国後高官として活躍)と数か月間寝食を共にし、家庭的なふれあいの中で研修指導をされている。それによって親日感が生まれるという副次的な効果もある由。

十二年前検事に任官された時は歴代女性検事三十八人目、初任地松山では初の女性検事と珍しがられたが、現在は八十四人まで増えた。女性の進出が話題にならなくなった時、始めて女性の地位が確立したといえる。研修生時代、祈りは全てに優先するモスレムと接し、カルチャーショックを受けたという。モスレムはコラン中心で刑法は非常に厳しい。また、オウムの問題を例に逮捕から起訴までの説明。その他活発な質問への明快な答。瞬く間に二時間が過ぎた。

(斎藤智恵)

## ◎その後の神戸

阪神大震災後、神戸支部が往復葉書で会員の安否を尋ねたうち、野依鈴子さんの返信をここに掲載させていただきます。

「丁寧なお見舞をいただき誠にありがとうございました。この大震災では大小はありますが、無残の方はございません。大切な命をなくされた方々、一瞬にかけがえない方々や物を失われた方々を思います。多少の家のいたみはありましたが、怪我もなく無事にいたしており、幸せに存じます。水もガスもなく、しばらく池田市の娘のところに避難しておりましたが、水が出るようになり帰宅、跡片づけなどいたしております。

大自然の威力の前には、人智の微力のほど、また文明にならされた奢りかとつくづく思い知らされました。いましばらくの命を大切に生きてゆきたいと思っております。あと先になりましたが会の皆様のご無事を願います。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

◎マリコ・テラサキさん  
駐米名誉総領事に就任

以前東京支部の講演会で興味深い講演をしてくださった寺崎マリ子さんが、駐米名誉総領事になられた。戦後五十年の意義深い出来事である。

## 『会議は踊らず、されど動く』

大学婦人協会会長 青木怜子

準備を重ねてきた国際会議もいよいよ目前ですが、東京支部の皆様には、種々のお手伝いのほか、資料用バッグまでご寄贈頂き、ありがたうございました。あとは中に入れる書類が待たれるばかり、と言いたところですが、まだまだ奮闘中という方が現実に近いように思われます。その一つが、登録の受付と整理ですが、そもそも海外からの登録が思ったほどに進みませんでした。震災、地下鉄サリン、高官狙撃、おまけに横浜、新宿と続発する事件が、恐い日本をイメージづけたからにはかなりません。徐々に進む円安の方向が今後の状況を少しは好転させるのでしょうか。六月十五日まで延期された登録締切結果にひたすら最後の期待を繋いでいます。

登録に関わるもう一つの難関は、特に開発途上国の参加者から、諸費用が高すぎて払えず、援助してほしいと言っていることです。これは、総会ではいつもあることなのですが、日本の物価高と円高が一層窮乏を作り出しているのは事実です。たしかに、私たち日本人にとって

も、四万四千円もの登録費は決して安いとは言えません。それでいて、その「高い」登録費をもってしても、会議の運営はおぼつかないのです。そのため、国庫補助金、自治体や様々な団体の助成金、企業募金、会員募金を頼りに資金作りをしてきました。一体これまでに、何通の助成金申請書を書いたことでしょうか。しかも、私たちのこととて、プロの会議屋に諸事代行を頼むわけではなく、手弁当、手作りで、節減を極めました。それにしても、国際会議は何故、こんなにもお金がかかるのでしょうか。

まず、会場費は止むを得ないこととはいえ、私たちの場合、義理も迷惑も顧みず、極端にコストを押さえました。「日本の夕べ」のおもてなしにしても、会員手作りの「日本の四季」を余興とするのはご存じの通りです。一方、議事進行に最低限必要な書類の作成や運搬費は出費を避けられません。登録のための機器や事務連絡も費用が嵩むものです。

国連ではありませんが、IFUWでは会議の公用語として、英、仏、西語が認められ、討議の内容が熟知されるためにはそれらの言語に対応する同時通訳が必要となります。これは、人員確保と待遇上の国際ルールのようなのがあり、通訳の宿泊費から、拘束する全日程の費用も支払われなければならず、莫大な出費となります。結局、少数参加の仏語については同時通訳を削る最終決定を先週したばかりです。

商業効果に直結できる企業セミナーやスポーツ大会やある種の学会とは異なり、私たちの会議にはスポンサーがありません。これはNGO会議の弱みでもあります。問題は、それほどまでに経済的負担を負いながら、何故、国際会議を開かなければならないか、ということにあります。

考え方にもよりまじりますが、一つには、国際大学婦人連盟という国際組織としての団体に加盟していることの必然性があるでしょう。また一つには、国際的連帯こそが今や欠くべからざる有効な手立てとして、世界の女性の問題を扱う時期に立ち至っているということでもあります。

「国連婦人の十年」、メキシコ、コペンハーゲン、ナイロビでの「国連婦人会議」がすでにその意味と成果を示しています。そして今秋、北京で開かれる「第四回世界女性会議」はそれ以上の成果を挙げることが期待されているのです。

それでは、IFUWの国際会議で、

私たちは何を世界的連帯の成果として挙げることができるのでしょうか。幾つもある中で、あえて一例を選ぶとすれば、「女児は未来の女性」、そして「女性の未来は世界の未来」のキーワードではないかと思えます。

新聞でも報じられたように、北京会議の行動綱領には「少女」の項目が取り上げられることになりました。「少女は未来の女性」との副題でもわかる通り、それはIFUWなどの提言から実現した課題です。生まれ落ちたその時から決められるかもしれない女性の未来や生涯を不利益なものとしないう、私たちは提言しています。IFUWが取り上げる様々な決議の中で、世界に直接訴えているものは幾つもあります。私たちは、日本で開かれる会議でそれらの提言に参加できるのだと思います。

会議のどの部分に参加してよいかわからない方は、とりあえず、全部に出席するつもりで、まず考えてみて下さい。会議がどんなものか説明するのは困難です。しかし、自分で見聞き、問うてみることからすべてが始まります。この八月、叡智と勇断を積んで、IFUWの「宝船」は、いよいよ横浜から出帆します。Aboard! お乗り後れないように。



# 「高等教育と女性」 —その社会的還元シリーズ①—

## 山崎倫子さん

皆さん、この写真をご覧ください。  
去る二月七日「武蔵野市立北町高齢者センター」を訪問されたダイアナ妃を、所長の山崎倫子先生が案内されたときのものです。



「ともしび」第六号に続き、編集係はセンターに先生を訪ね、今回は激動の昭和史と重なるような、その人生を語っていただいた。明るい日差しの中のセンターには、ピンクの制服のボランティアたちと談笑する大勢のお年寄りの楽しそうな姿があふれていた。先生に会った瞬間「あつ、秋篠寺の伎芸天！」温かく優しく頼もしく、ふっと肩の力が緩むのを感じた。

先生は一九一九年のお生まれで、夫君と共に診療に携わる一方、大学婦人協会会長、国連総会政府代表代理、日本ユネスコ国内委員、海外移住審議会委員、日本女医会会長、日本汎太平洋東南アジア婦人協会会長等を歴任され、五月七日には国際女医会名誉会員に選ばれたというFAXが届いたばかりのこと。

国際的な活躍もそのはず、英、仏、独、ロシア、中国語を話される。戦前戦中まさに「敵性語」を聖心語学校で、また十三才でハルビンに渡ってからはブリティッシュ・ハイスクールで学ばれたという。「どんな人とも話せば解りあえる」という父上の教育方針が、国際人倫子先生を育んだ土壌だったのだろう。

東京女子医専に進む時、「日本人が満州人にひどいことをしているのを見かねて、卒業したら満州に帰って医者をやろう」と思い、昭和十八年から二年間ハルビン医大付属市立病院に勤務された。その間には奥地のひどい環境のロシア人疎開地を馬で巡回往診もされた。乗馬を始めて間もない頃、興奮した馬に一〇〇メートルも引きずられ死ぬ思いをしながらも、翌日にはもう乗ったという先生には、乗馬往診がむしろ楽しかった。

たとのこと。

そして、二十年八月九日、ソ連の侵攻。敗戦とともにハルビンは無政府、無秩序の街と化し、悲惨な姿の在留邦人たちが集まってきた。誰もがわが身を守ることさえ困難な状況の中、二十五才の先生はソ連占領軍司令部とひるむことなく毅然と交渉し、街の中央部に国際病院を開設された。地獄のような飢えと病氣と屍の中、日本人だけでなくソ連人、中国人のためにも分け隔てなく診療し、危険な地域にも度々往診に行かれた。ハルビン国際ホテル社長であった父上も命を賭して難民救済会の会長の任に当たっておられた。父上は「人間はひとり生きていくのではない。生きていくかぎり人の役に立つように」と教えられていたという。

この間の阪神大震災にも、女性医師十二人と駆けつけ奮闘された由。医療の方面のみに留まらず、さまざまな方面での先生のご活躍の底には、人間として何が大切かを見極めた大きなエネルギーがたぎっているように思われる。

二十八年に共に国立公衆衛生院に在籍されていた山崎浩氏と結婚され、吉祥寺に山崎医院を開業された。その後、多くの国際的な場で活躍して

いる間に老人福祉に関心を持ち、ご自宅の土地二三〇坪を市に寄付され、今日のセンターが設立されたという。多くのボランティアや来所のお年寄りとの、さながら大家族のような日々を幸せと語られる。軍医だった夫君と共に「生きて日本に帰れたこと自体が不思議、第二の人生は人の役に立つこと」が信条とのお二人のもとには、共鳴する多くのボランティアが集まる。先生は「性善説を信じます」さらに「それに少しの勇氣と一歩踏み出す決断とが必要」と断言される。ずしりと胸にしみる言葉であった。

大学婦人協会会長時代のエピソード(全国セミナーを始められたこと、国連総会での青木怜子現会長との心温まる交流など)も聞くことができ、また協会の前進、発展を願う先生のお気持ちも強く感じられた。

庭の緑のまぶしい部屋で紅茶とクッキーを頂きながら、先生のお話に聞き入っているうちに二時間が過ぎていた。我に返り、自分の中に新しい何かがふつふつと湧くのを感じつつ、道に迷わないかと心配してくださる先生に見送られて帰途についた。

著書紹介(東京支部受贈)

「回想のハルビン」牧羊社版

## 1994年度大学婦人協会東京支部決算報告

## 1995年度予算

1994年4月1日～1995年3月31日  
(単位:円)1995年4月1日～1996年3月31日  
(単位:円)

## 収入の部

| 科 目          | 予算額       | 決算額       | 差 額      | 備 考                   | 予算額       | 備 考         |
|--------------|-----------|-----------|----------|-----------------------|-----------|-------------|
| I 会 費 取 入    | 1,500,000 | 1,677,000 | +177,000 | 2000×54口、3000×523口    | 1,500,000 | 3,000×500口  |
| II 基本財産利息収入  | 90,000    | 70,164    | -19,836  |                       | 90,000    |             |
| III 運用財産利息収入 | 2,000     | 3,339     | +1,339   |                       | 2,000     |             |
| IV 寄 付 取 入   | 300,000   | 597,055   | +297,055 | 寄付、参加費、バザー 他          | 400,000   | 寄付、参加費      |
| V 雑 収 入      | 30,000    | 19,300    | -10,700  | 入会還付金400×2、支部振興費200×1 | 30,000    | 入会還付金、支部振興費 |
| 当期収入合計       | 1,922,000 | 2,366,858 | +444,858 |                       | 2,022,000 |             |
| 前期繰越金        | 994,601   | 994,601   | 0        |                       | 1,363,507 |             |
| 取 入 合 計      | 2,916,601 | 3,361,459 | +444,858 |                       | 3,385,507 |             |

## 支出の部

| 科 目         | 予算額       | 決算額       | 差 額      | 備 考                                                                       | 予算額       | 備 考                          |
|-------------|-----------|-----------|----------|---------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------------------|
| I 管 理 費     | 1,160,000 | 991,089   | -168,911 |                                                                           | 1,180,000 |                              |
| (1) 備 品 費   | 20,000    | 0         | -20,000  |                                                                           | 20,000    |                              |
| (2) 消 耗 品 費 | 120,000   | 55,243    | -64,757  | 文具、コピー、タックシール 他                                                           | 120,000   | 文具、コピー、タックシール 他              |
| (3) 印刷製本費   | 50,000    | 42,623    | -7,377   | 総会、支部お知らせ                                                                 | 50,000    | 総会、支部お知らせ                    |
| (4) 通 信 費   | 400,000   | 324,863   | -75,137  | 支部お知らせ、本部会報                                                               | 400,000   | 支部お知らせ、本部会報                  |
| (5) 交 通 費   | 70,000    | 59,860    | -10,140  |                                                                           | 70,000    |                              |
| (6) 事 務 所 費 | 100,000   | 100,000   | 0        | 本部へ分担金                                                                    | 100,000   | 本部へ分担金                       |
| (7) 事 務 手 当 | 400,000   | 408,500   | +8,500   | 事務員給料分担 他                                                                 | 420,000   | 事務員給料分担 他                    |
| II 運 営 費    | 120,000   | 80,813    | -39,187  |                                                                           | 120,000   |                              |
| (1) 総 会 費   | 60,000    | 45,550    | -14,450  | 会場費、マイク他、菓子代                                                              | 60,000    | 会場費、マイク他、菓子代                 |
| (2) 委 員 会 費 | 60,000    | 35,263    | -24,737  |                                                                           | 60,000    |                              |
| III 事 業 費   | 650,000   | 726,050   | +76,050  | ともしび(2回)、講演会他、<br>国際会議資料袋内金、<br>阪神大震災神戸支部見舞<br>金等 650,000<br>印刷用紙等 50,000 | 1,000,000 | ともしび(2回)、講演会 他<br>国際会議資料袋、名札 |
| IV 予 備 費    | 20,000    | 0         | -20,000  |                                                                           | 20,000    |                              |
| V 基 本 金 積 立 | 200,000   | 200,000   | 0        | 貸付信託                                                                      | 300,000   | 貸付信託                         |
| 当期支出合計      | 2,150,000 | 1,997,952 | -152,048 |                                                                           | 2,620,000 |                              |
| 次期繰越金       | 766,601   | 1,363,507 | +596,906 |                                                                           | 765,507   |                              |
| 支 出 合 計     | 2,916,601 | 3,361,459 | +444,858 |                                                                           | 3,385,507 |                              |

1995年3月31日現在

基本金財政状況: 基本金 2,978,126 貸付信託 2,978,126……三井信託銀行 新宿支店  
 運用財政状況: 繰越金 1,363,507 普通預金 1,332,528……三井信託銀行 新宿支店  
 現 金 30,979

会 計 高井 敬子

山村 敬子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、間違いのないことを証明いたします。

1995年4月10日

会計監査 金子 京子

峯川 正子

## 東京支部新委員紹介

財務委員会に入って三年、やっと  
 雰囲気慣れたところ、この度、東  
 京支部のお手伝いも兼務することに  
 なりました。どうぞよろしく。

中山律子(奈女)

## 編集後記

高学歴のエリートといわれる人達  
 が、オウム事件の中心に関わって  
 いるということに、一様に驚かされる。  
 学歴とは? 理性とは?

理性とは、常に磨き続けなければ  
 すぐ腐蝕してしまうことを、痛感さ  
 せられた。

五十年前まで、国民総日本教信者  
 であったことを、けっして忘れては  
 ならない。オウムのみの特殊な事件  
 ではない。

(S)

一九六〇年六月十五日、梅雨の街  
 頭で樺美智子の死を聞き、黙って解  
 散した。ししゅうのブラウスにレイ  
 ンコートの紺がしみた。

娘を気づかなくて下宿に来た母が、  
 丁寧に丁寧にブラウスを洗って帰っ  
 ていった。それでも我ら安中派。母  
 はもう亡い。

(S)